

### 連結財務諸表

銀行法第20条第2項の規定により作成した書類について、会社法第396条第1項により、PwCあらた有限責任監査法人の監査を受けております。

#### ➤ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2015年度末	2016年度末		2015年度末	2016年度末
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
現金預け金	114,213	180,581	預金	1,921,805	2,109,583
買入金銭債権	884	573	コールマネー及び売渡手形	—	70,000
金銭の信託	23,000	23,000	借入金	60,000	103,000
有価証券	618,942	629,254	外国為替	87	108
貸出金	1,344,184	1,539,630	その他負債	78,084	71,520
外国為替	1,139	7,268	賞与引当金	714	782
その他資産	31,507	53,223	退職給付に係る負債	1,103	1,117
有形固定資産	1,057	710	役員退職慰労引当金	41	56
建物	254	106	睡眠預金払戻損失引当金	58	62
リース資産	28	0	<b>負債の部合計</b>	<b>2,061,895</b>	<b>2,356,231</b>
その他の有形固定資産	774	602	<b>純資産の部</b>		
無形固定資産	4,711	4,803	資本金	31,000	31,000
ソフトウェア	4,677	4,789	資本剰余金	21,000	21,000
のれん	19	—	利益剰余金	24,419	25,815
その他の無形固定資産	14	13	株主資本合計	76,419	77,815
繰延税金資産	1,681	762	その他有価証券評価差額金	3,331	4,776
貸倒引当金	△ 1,035	△ 971	繰延ヘッジ損益	△ 2,531	△ 1,338
			退職給付に係る調整累計額	△ 157	△ 109
			その他の包括利益累計額合計	643	3,328
			非支配株主持分	1,329	1,460
<b>資産の部合計</b>	<b>2,140,286</b>	<b>2,438,836</b>	<b>純資産の部合計</b>	<b>78,391</b>	<b>82,604</b>
			<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>2,140,286</b>	<b>2,438,836</b>

## ➤ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
<b>経常収益</b>	<b>37,937</b>	<b>38,510</b>
<b>資金運用収益</b>	<b>25,482</b>	<b>26,533</b>
貸出金利息	14,739	16,065
有価証券利息配当金	10,671	10,394
コールローン利息及び買入手形利息	7	—
預け金利息	61	63
その他の受入利息	3	9
<b>役務取引等収益</b>	<b>6,886</b>	<b>6,870</b>
<b>その他業務収益</b>	<b>5,189</b>	<b>4,871</b>
<b>その他経常収益</b>	<b>379</b>	<b>234</b>
貸倒引当金戻入益	—	22
金銭の信託運用益	54	8
その他の経常収益	325	203
<b>経常費用</b>	<b>31,949</b>	<b>33,460</b>
<b>資金調達費用</b>	<b>9,022</b>	<b>8,672</b>
預金利息	4,829	5,105
コールマネー利息及び売渡手形利息	5	△ 17
借入金利息	266	211
短期社債利息	—	0
その他の支払利息	3,921	3,372
<b>役務取引等費用</b>	<b>4,054</b>	<b>5,480</b>
<b>その他業務費用</b>	<b>181</b>	<b>86</b>
<b>営業経費</b>	<b>18,541</b>	<b>19,079</b>
<b>その他経常費用</b>	<b>150</b>	<b>142</b>
貸倒引当金繰入額	36	—
その他の経常費用	113	142
<b>経常利益</b>	<b>5,987</b>	<b>5,049</b>
<b>特別損失</b>	<b>11</b>	<b>214</b>
固定資産処分損	11	57
減損損失	—	150
その他の特別損失	—	7
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>5,976</b>	<b>4,834</b>
法人税、住民税及び事業税	1,954	1,429
法人税等調整額	62	△ 14
<b>法人税等合計</b>	<b>2,017</b>	<b>1,414</b>
<b>当期純利益</b>	<b>3,959</b>	<b>3,420</b>
<b>非支配株主に帰属する当期純利益</b>	<b>54</b>	<b>113</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>3,905</b>	<b>3,306</b>

## ➤ 連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
当期純利益	3,959	3,420
その他の包括利益	△ 3,632	2,703
その他有価証券評価差額金	△ 3,286	1,444
繰延ヘッジ損益	△ 261	1,192
為替換算調整勘定	△ 1	—
退職給付に係る調整額	△ 82	65
<b>包括利益</b>	<b>327</b>	<b>6,123</b>
親会社株主に係る包括利益	290	5,992
非支配株主に係る包括利益	37	131

## ● 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額					非支配株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,000	21,000	20,514	72,514	6,618	△ 2,269	0	△ 91	4,258	1,292	78,064
当期変動額											
親会社株主に 帰属する当期 純利益	-	-	3,905	3,905	-	-	-	-	-	-	3,905
株主資本以外 の項目の当期 変動額(純額)	-	-	-	-	△ 3,286	△ 261	△ 0	△ 65	△ 3,614	37	△ 3,577
当期変動額合計	-	-	3,905	3,905	△ 3,286	△ 261	△ 0	△ 65	△ 3,614	37	327
当期末残高	31,000	21,000	24,419	76,419	3,331	△ 2,531	-	△ 157	643	1,329	78,391

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額				非支配株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,000	21,000	24,419	76,419	3,331	△ 2,531	△ 157	643	1,329	78,391
会計方針の変更 による累積的影 響額	-	-	48	48	-	-	-	-	-	48
会計方針の変更 を反映した当期 首残高	31,000	21,000	24,468	76,468	3,331	△ 2,531	△ 157	643	1,329	78,440
当期変動額										
剰余金の配当	-	-	△ 1,959	△ 1,959	-	-	-	-	-	△ 1,959
親会社株主に 帰属する当期 純利益	-	-	3,306	3,306	-	-	-	-	-	3,306
株主資本以外 の項目の当期 変動額(純額)	-	-	-	-	1,444	1,192	47	2,685	131	2,816
当期変動額合計	-	-	1,347	1,347	1,444	1,192	47	2,685	131	4,164
当期末残高	31,000	21,000	25,815	77,815	4,776	△ 1,338	△ 109	3,328	1,460	82,604

## ● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	5,976	4,834
減価償却費	1,951	1,989
減損損失	—	150
のれん償却額	79	19
貸倒引当金の増減(△)	△118	△64
賞与引当金の増減額(△は減少)	△38	67
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	85	107
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△26	14
睡眠預金払戻損失引当金の増減額(△は減少)	34	3
資金運用収益	△25,482	△26,533
資金調達費用	9,022	8,672
有価証券関係損益(△)	△7,222	5,146
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△54	△8
為替差損益(△は益)	20,126	3,827
固定資産処分損益(△は益)	13	67
貸出金の純増(△)減	△156,996	△195,446
預金の純増減(△)	43,751	185,285
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	20,000	50,000
コールローン等の純増(△)減	5,115	311
コールマネー等の純増減(△)	△6,000	70,000
外国為替(資産)の純増(△)減	1,085	△6,129
外国為替(負債)の純増減(△)	40	21
資金運用による収入	28,395	29,088
資金調達による支出	△9,279	△8,782
その他	△6,131	△23,016
小計	△75,671	99,628
法人税等の支払額	△2,322	△1,836
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△77,993</b>	<b>97,791</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△154,201	△210,315
有価証券の売却による収入	87,584	51,393
有価証券の償還による収入	159,383	138,435
金銭の信託の減少による収入	565	—
有形固定資産の取得による支出	△268	△154
無形固定資産の取得による支出	△2,071	△1,793
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>90,992</b>	<b>△22,434</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
劣後特約付借入金の返済による支出	—	△7,000
配当金の支払額	—	△1,959
リース債務の返済による支出	△32	△30
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△32</b>	<b>△8,989</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△1</b>	<b>—</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>12,965</b>	<b>66,367</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>101,248</b>	<b>114,213</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>114,213</b>	<b>180,581</b>

## ● 連結注記表

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

子会社、子法人等及び関連法人等の定義は、銀行法第2条第8項及び銀行法施行令第4条の2に基づいております。

### 連結財務諸表の作成方針

#### 1. 連結の範囲に関する事項

- 連結される子会社.....2社  
会社名  
ソニーペイメントサービス株式会社  
SmartLink Network Hong Kong Limited  
非連結の子会社.....該当事項はありません。

#### 2. 連結される子会社の事業年度等に関する事項

- 連結される子会社の決算日は次のとおりであります。  
3月末日.....2社

#### 3. のれんの償却に関する事項

- 5年間の定額法により償却を行っております。

### 会計方針に関する事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

#### (2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定額法(当社及び連結される子会社の建物は、建物附属設備のみであります。)を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	8年～18年
その他	2年～20年

##### ②無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社並びに連結される子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

##### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る有形固定資産中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については零としております。

#### (4) 貸倒引当金の計上基準

当社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署の協力

の下に資産査定部署が資産査定を実施しております。

連結される子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

#### (5) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

#### (6) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年～17年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理

#### (7) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

#### (8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

#### (9) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。連結される子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

#### (10) 重要なヘッジ会計の方法

金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジ又は時価ヘッジによっております。固定金利の貸出金の相場変動を相殺するヘッジにおいては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に基づき一定の残存期間毎にグルーピングしてヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。短期固定金利の預金に係る予定取引のキャッシュ・フローを固定するヘッジにおいては、業種別監査委員会報告第24号に基づき一定の金利改定期間毎にグルーピングしてヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。また、その他有価証券に区分している固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては、個別にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引等をヘッジ手段として指定しております。これらについては、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

#### (11) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」であります。

#### (12) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産等に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

## 会計方針の変更

### 1. 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下、「回収可能性適用指針」という。)を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、当連結会計年度の期首において、繰延税金資産が48百万円、利益剰余金が48百万円増加しております。

当連結会計年度の期首の純資産に影響額が反映されたことにより、連結株主資本等変動計算書の利益剰余金の期首残高は48百万円増加しております。

## 注記事項

### (連結貸借対照表関係)

- 貸出金のうち、破綻先債権額は176百万円、延滞債権額は1,580百万円であります。なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額はありません。なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち、貸出条件緩和債権は1,227百万円であります。なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は2,984百万円であります。なお、上記1、3及び4に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 平成26年11月28日)に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、連結貸借対照表計上額は、7,884百万円であります。
- 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	150,000百万円
貸出金	87,626百万円
担保資産に対応する債務	
借入金	90,000百万円
コールマネー	70,000百万円

上記のほか、内国為替決済、デリバティブ等の取引の担保として有価証券14,330百万円を差し入れております。また、その他資産には、金融商品等差入担保金21,650百万円、保証金992百万円が含まれております。

- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、22,197百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のものが20,379百万円あります。
- 有形固定資産の減価償却累計額.....2,411百万円
- 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約借入金13,000百万円が含まれております。

### (連結損益計算書関係)

#### 1. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
東京都千代田区	本社資産	建物	150

当社グループは、原則として全ての資産を単一の資産グループとしてグルーピングを行っております。また、処分予定資産につきましては、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、当社の本社移転の意思決定により、将来の使用が見込めなくなった資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額した金額を、減損損失(150百万円)として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、本社の移転に伴い将来キャッシュ・フローの回収は見込めないことから、これらの資産はいずれも回収可能価額を零としております。

### (連結株主資本等変動計算書関係)

#### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計 年度末株式数	摘要
発行済株式	620	-	-	620	
普通株式	620	-	-	620	
種類株式	-	-	-	-	
<b>合計</b>	<b>620</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>620</b>	

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の 種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年 5月27日 取締役会	普通株式	1,959	3.160	平成28年 3月31日	平成28年 6月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の 種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年 5月11日 取締役会	普通株式	1,590	利益 剰余金	2,565	平成29年 3月31日	平成29年 6月20日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	(単位:百万円)
現金預け金勘定	180,581
現金及び現金同等物	180,581

## (金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、銀行業務および金融商品取引業務を行っております。金融資産については、公社債・外国証券等の有価証券ならびに貸出金等の運用資産により構成されています。また、金融負債については、個人顧客からの預金による調達を占めております。このように、当社は、主として金利・為替等の変動リスクを伴う金融資産及び金融負債を有していることから、金利・為替変動等による不利な影響が生じないよう、資産負債の適切なバランスを保つことを目的に、資産負債の総合管理(ALM)を行っております。また、リスクをコントロールする手段としてデリバティブ取引も行っております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として有価証券および貸出金であります。有価証券は主に国債および社債等であり、金利リスクおよび発行体の信用リスク、市場価格変動リスク等に晒されております。また、貸出金は、個人向けの住宅ローンが中心であり、債務不履行に伴う信用リスクならびに金利リスクに晒されております。この内、住宅ローンの信用リスクについては、不動産担保等を設定することによりリスクの低減を図っております。

一方、金融負債は、主として個人顧客からの預金による調達であり、金利リスクに晒されています。また、個人顧客からの預金には、外貨建のものを含んでおり、これらについては金利・為替リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、主にALMの一環で行っております。この内、固定金利の貸出金、預金の金利リスクに対して、金利スワップ取引をヘッジ手段としてヘッジ会計を適用しております。貸出金については、ヘッジ開始時においてヘッジ対象の貸出金とヘッジ手段の金利スワップとが3カ月以内の残存期間でグルーピングされていることを確認することにより、ヘッジの有効性の評価に代えております。預金については、ヘッジ開始時においてヘッジ対象の預金とヘッジ手段の金利スワップの金利インデックスが同一であること、ヘッジ対象とヘッジ手段が3カ月以内の金利改定期間でグルーピングされていることを確認することにより、ヘッジの有効性の評価に代えております。また、その他有価証券に区分している固定金利の債券の金利変動に伴う相場変動を相殺する目的で金利スワップ取引等を行い、ヘッジ対象に係る損益を認識する方法(時価ヘッジ)を適用しております。ヘッジ開始時においてヘッジ対象の有価証券とヘッジ手段の金利スワップ等のキャッシュ・フローが一致していることを確認することにより、ヘッジの有効性を評価しております。

また、金融商品の取引にあたっては、流動性リスクに晒されています。流動性リスクには、資金繰りリスクと、市場流動性リスクがあります。資金繰りリスクとは、決済日に必要な資金が確保できなくなり、資金決済が履行できなくなることや、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクです。また、市場流動性リスクとは、市場の混乱などにより市場において取引ができなくなり、当社

が保有するポジションを解消することが不可能となることや、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスクです。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

## ①信用リスクの管理

当社は、信用リスクに関する管理諸規程を整備し、同諸規程に従い、それぞれの金融資産の特性に応じた信用リスク管理を行っています。

個人向け貸出金については、個別案件ごとの与信審査、信用情報管理、担保の設定、問題債権への対応など個人与信管理に関する体制を整備して管理しています。

法人向け貸出金・社債等については、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、信用格付け、保証や担保の設定、問題債権への対応など法人与信・市場与信管理に関する体制を整備して管理しています。

さらに、有価証券の発行体の信用リスクおよびデリバティブ取引に関するカウンターパーティーリスク等の市場与信リスク管理においては、時価の把握を定期的に行っています。

これらの信用リスク管理ならびに与信管理は、総合リスク管理部ならびに審査部が行い、その管理状況を、取締役会や経営会議に定期的に報告しています。さらに、内部監査部による監査を実施しています。

## ②市場リスクの管理

## (i) 金利・為替リスクの管理

当社は、市場リスクに関する管理諸規程を整備し、同諸規程に従い、金利・為替・株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債(オフバランスを含む)の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクを管理しています。市場リスクに関する管理諸規程において、リスク管理方法や手続き等の詳細を明記しており、取締役会にて決定されたALMおよびリスク管理に関する方針に基づき、原則として1カ月に1回開催されるALM委員会およびリスク管理委員会において実施状況の把握・確認、今後の対応、リスクの状況等について協議を行っています。日次管理は総合リスク管理部において実施しており、金融資産および金融負債の金利や為替レート、期間等を総合的に把握し、バリューアットリスク(VaR)や金利感応度分析等により、モニタリングならびに規程の遵守状況等の管理を行っております。なお、ALMの観点より、金利・為替の変動リスクをヘッジするための金利スワップ、通貨スワップ、為替取引等のデリバティブ取引も行っています。

## (ii) 市場価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有については、当社の市場リスクならびに市場与信リスクに関する管理諸規程に従い行われています。市場運用部では外部から有価証券の購入を行っており、審査部による事前審査、総合リスク管理部による投資限度額設定・管理のほか、各部の継続的なモニタリングを通じて、市場価格変動リスクの管理を行っています。

## (iii) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、市場リスクに関する管理諸規程に基づき実施されています。また、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制態勢を整備しています。

## (iv) 市場リスクに係る定量的情報

当社において、主要なリスク変数である金利リスクおよび為替リスクの影響を受ける主な金融商品は、貸出金、有価証券、預金、デリバティブ取引となります。

当社では、これらの金融資産および金融負債について、観測期間250営業日の金利および為替の合理的な予想変動幅を用いた当面20営業日の損益に与える影響額をヒストリカル法により算出し、金利および為替の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。平成29年3月31日現在における当該数値は、99%の信頼区間において1,621百万円となっております。

当該影響額は、金利および為替を除くリスク変数が一定の場合を前提としております。また、金利および為替の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

以上の市場リスク管理は、総合リスク管理部を中心に行い、また、その管理状況を、取締役会や経営会議に、定期的に報告しています。さらに、内部監査部による監査を実施しています。

## ③流動性リスクの管理

当社は、流動性リスクに関する管理諸規程を整備し、同諸規程に従い、各種流動性リスクの管理を実施しております。

まず、資金繰りリスクの管理については、当社では資金繰りの状況をその資金繰りの逼迫度に応じてフェーズ分けし、各フェーズにおける管理手法、報告方法などを定めるとともに、必要に応じて、ガイドラインなどの設定と見直しを行っております。

また、市場流動性リスクの管理については、各種取扱商品に対する市場流動性の状況を把握し、必要に応じて、商品ごとのガイドラインなどの設定と見直しを行っております。

これらの流動性リスク管理は、総合リスク管理部が行い、また、その管理状況を、取締役会や経営会議に、定期的に報告しています。さらに、内部監査部による監査を実施しています。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません((注2)参照)。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金預け金	180,581	180,581	-
(2)有価証券			
満期保有目的の債券	6,218	6,306	87
その他有価証券	623,026	623,026	-
(3)貸出金	1,539,630		
貸倒引当金 <sup>(*)</sup>	△968		
	1,538,661	1,701,200	162,538
資産計	2,348,488	2,511,114	162,626
(1)預金	2,109,583	2,111,525	1,941
負債計	2,109,583	2,111,525	1,941
デリバティブ取引 <sup>(**)</sup>			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,529	2,529	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(17,959)	(17,959)	-
デリバティブ取引計	(15,429)	(15,429)	-

(\*)貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(\*\*)その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

## 資産

## (1)現金預け金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2)有価証券

債券及び投資信託は、取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

## (3)貸出金

貸出金は、貸出金の種類ごとに、将来キャッシュ・フローを見積もり、一定の割引率で割り引いて時価を算定しております。割引率は、LIBORベースのイールドカーブにリスクリュプレミアムとして一般貸倒引当金の引当率を加えた利率を使用しております。

## 負債

## (1)預金

預金は、預金種別ごとに、将来キャッシュ・フローを見積もり、一定の割引率で割り引いて時価を算定しております。割引率は、LIBORベースのイールドカーブにリスクリュプレミアムとして当社の格付け別累積デフォルト率を加えた利率を使用しております。

## デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引(金利スワップ)、通貨関連取引(為替予約、外国為替証拠金、通貨先渡、通貨オプション、通貨スワップ)であり、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額又は取引金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2) その他有価証券」には含まれておりません。

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式 <sup>(*)</sup>	9

(\*)非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(有価証券関係)

※連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」の中の信託受益権を含めて記載しております。

1. 満期保有目的の債券(平成29年3月31日現在)

(単位:百万円)

	種類	連結貸借 対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えるもの	国債	5,990	6,073	83
	社債	228	232	4
	小計	6,218	6,306	87
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えないもの	国債	-	-	-
	社債	-	-	-
	小計	-	-	-
<b>合計</b>		<b>6,218</b>	<b>6,306</b>	<b>87</b>

2. その他有価証券(平成29年3月31日現在)

(単位:百万円)

	種類	連結貸借 対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えるもの	債券	162,942	154,516	8,425
	国債	69,596	63,897	5,699
	地方債	34,866	33,697	1,168
	社債	58,479	56,921	1,557
	その他	283,047	277,903	5,143
	外国債券	278,572	275,617	2,955
	その他の 証券	4,474	2,286	2,188
	小計	445,989	432,419	13,569
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えないもの	債券	32,399	33,090	△690
	国債	27,496	28,175	△679
	地方債	-	-	-
	社債	4,903	4,914	△11
	その他	145,210	145,977	△767
	外国債券	144,636	145,404	△767
	その他の 証券	573	573	△0
	小計	177,610	179,067	△1,457
<b>合計</b>		<b>623,599</b>	<b>611,487</b>	<b>12,112</b>

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
債券	-	-	-
国債	-	-	-
地方債	-	-	-
社債	-	-	-
その他	55,324	281	△41
外国債券	55,324	281	△41
その他の証券	-	-	-
<b>合計</b>	<b>55,324</b>	<b>281</b>	<b>△41</b>

(金銭の信託関係)

1. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

(平成29年3月31日現在)

(単位:百万円)

	連結貸借 対照表 計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照 表計上額が取得原 価を超えるもの	うち連結貸借対照 表計上額が取得原 価を超えないもの
その他の 金銭の 信託	23,000	23,000	-	-	-

(注):「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(1株当たり情報)

- 1株当たりの純資産額 ..... 130,877円87銭
- 1株当たりの親会社株主に帰属する  
当期純利益金額 ..... 5,333円68銭

## 連結主要経営指標

(単位:百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
(1) 経常収益	34,328	36,486	38,424	37,937	38,510
(2) 経常利益	4,454	5,636	7,327	5,987	5,049
(3) 親会社株主に帰属する当期純利益	3,277	3,449	4,585	3,905	3,306
(4) 包括利益	7,492	4,706	4,234	327	6,123
(5) 純資産額	69,134	73,840	78,064	78,391	82,604
(6) 総資産額	2,012,627	2,068,713	2,074,623	2,140,286	2,438,836
(7) 連結自己資本比率	11.96%	11.71%	10.62%	9.84%	9.69%

(注): 2016年度末以降の連結自己資本比率の算定における信用リスク計測手法を従来の「標準的手法」から「基礎的内部格付手法」に変更しております。

## 連結リスク管理債権

(単位:百万円)

	2015年度末	2016年度末
破綻先債権	285	176
延滞債権	1,332	1,580
3カ月以上延滞債権	—	—
貸出条件緩和債権	1,443	1,227
合計	3,061	2,984

## 事業の種類別セグメント情報

### 2015年度

当社グループは銀行業以外の事業を営んでおりますが、それらの事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載しておりません。

### 2016年度

当社グループは銀行業以外の事業を営んでおりますが、それらの事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載しておりません。